

# KADOMA PHOTO NEWS



## みんなで折った3万羽の鶴が 夢をつなぐ



7月16日～24日、ペアビル古川橋で「いのち輝くツルナリエ～2022夏～」が開催され、それに先立ち7月15日に完成披露祝賀会が行われました。これは、大阪・関西万博開幕1000日前の特別企画で、認知症の人や高齢者が中心となって作った色とりどりの折り鶴が展示されました。主催したゆめ伴プロジェクトin門真実行委員会の森安美総合プロデューサーは「折り鶴を作った認知症の人や家族から『誰かに喜んでもらえることが嬉しい』など喜びの声が多く寄せられました。万博をめざすことで一人でも多くの認知症の人に笑顔になってもらいたいです」と話されました。



## みんなで作ろう 集まれる場所

6月25日、門真市駅前のイズミヤ門真店で、空き店舗スペースを活用した「塗装ワークショップ」が行われました。駅前のまちづくりのために人が集まれる場所をつくらうとする中で「せっかくだからみんなでやろう」と店舗を運営するエイチ・ツー・オー商業開発が主催しました。当日は親子連れなど多くの方が初めてのペンキ塗りにチャレンジ。一生懸命ペンキを塗っていた2歳の菊地梓さんは「楽しかった」と教えてくれました。協賛したアビリティペイント代表の大西卓也さんは「コロナ禍で子どもたちに何かできることがないかと初めて挑戦しましたが、こんなに喜んでくれると思いませんでした。またやりたい!」と喜んでいました。



## 児童虐待防ぐため寄附集め無料上映会を開催



映画について話す加門幾生監督(右から2人目)ら

7月17日、FOR KIDS KADOMA 実行委員会が、児童虐待をテーマにした映画「189」の無料上映会をルミエールホールで開催しました。上映会ではひとり親への食料支援のためのフードドライブや、無電化地域にあかりを届けるための本などの寄贈が呼びかけられたほか、ガラスケや子どもにより門真市歌ダンスが初披露されました。実行委員会の阪本晋治さんは「児童虐待に関心を持つ大人が増えて、いち早く命を救うことができる社会になれば。無料上映会がより多くの地域で開催されるよう、クラウドファンディングで開催できた今回のノウハウを多くの人にお伝えしたいです」と話されました。

## 3年ぶりの生演奏

6月19日、ルミエールホールで3年ぶりに観客を入れた「第24回門真市吹奏楽フェスティバル」が開催されました。新型コロナの影響で十分に練習ができなかったりメンバーが集まらなかったりと困難が多かったり、市内で活動する8つの吹奏楽団が出演しました。生演奏を楽しみにしていた多くの方が来場し、演奏中に自然と手拍子が巻き起こるなど、会場は終始温かい雰囲気になりました。



## 還付金詐欺を未然に防止 感謝状贈呈

6月21日、還付金詐欺を未然に防いだとして、渡邊文賀さんと櫻庭翔二さんに門真警察署から感謝状が贈呈されました。市内のコンビニエンスストアで電話をしながらATMを操作する高齢者に声をかけたことで詐欺が発覚。高齢者に被害はありませんでした。電話をしながらATMを操作する人を見かけたときは、お声がけをお願いします。



左から、渡邊文賀さん、櫻庭翔二さん、新居也門真警察署長

**還付金詐欺にご注意**

ATMから還付金を受け取ることはできません。市職員などを名乗る人から「医療費などの還付金があるのでATMへ」と言われたら、家族や警察署、消費生活センターに相談しましょう。

**相談先** 門真警察署 ☎06(6906)1234  
門真市消費生活センター ☎06(6902)7249

## 複業人材が市アドバイザーに就任

7月1日、市が募集した学力向上や職員採用、公民連携など7分野のアドバイザーが決まり、オンラインで就任式を行いました。選ばれた7人は12月までの半年間、門真市の課題解決に向けて市職員とともに取り組みます。宮本市長は「若い人が多い門真市職員の当り前のレベルを上げるために刺激的な提案をしていただきたい」と話しました。職員研修アドバイザーとなった、大手コンサルティング会社で働く高篠拓也さんは「階層別ではない研修も設けてスキルアップだけでなく組織の活性化も図りたい」と意気込んでいました。

